

平成30年度 第5回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 31 年 3 月 14 日(木) 14:00 ~ 15:30
2. 開催場所 : 株式会社東北新社 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-10)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 6 名
出席委員の氏名 : 小池保 委員長、渡辺祥子 委員、横山宗嘉 委員、渡辺純一 委員、藤森益弘 委員、
田久保敏 委員
欠席委員の氏名 : 谷口恭子 委員

放送事業者側出席者氏名 :

<株式会社東北新社メディアサービス>

菅正剛 取締役

<株式会社ザ・シネマ>

松崎航 ゼネラルマネージャー、福寿亮、小柳大侍

4. 審議対象チャンネル : ザ・シネマ HD、ザ・シネマ4K
5. 議題 : 番組審議
<審議対象番組>
 - ザ・シネマ
 - ・「ターミネーターシリーズ一挙放送番宣」
 - ・「ガバナー/知事シュワルツェネッガー」
 - ザ・シネマ4K
 - ・12 月からサービス開始となった4K 放送の主カラインアップである名画特集

6. 審議内容

<「ターミネーターシリーズ一挙放送番宣」について>

・女性視聴者を無視した作りだと感じた。アーノルド・シュワルツェネッガーは CM などのおかげで日本人の老若男女問わず知られ好まれている存在。その部分を意識してほしかった。

・印象に残らなかった。シュワルツェネッガーが出てきたという印象しかない。表現方法として、より認知と視聴に繋がるようなやり方はなかったのか？そのために 30 秒という尺が適切だったのか？映画の予告は 30 秒よりも長い。商品CMではないので 30 秒にこだわる必要もなかったのでは？

<「ガバナー/知事シュワルツェネッガー」について>

・映画人ではなく、政治家という切り口でシュワルツェネッガーを取り上げた事について興味深く観られた。狙いも悪くないと感じた。

・映画専門チャンネルとして、政治家という取り上げ方は適切なのか？他の切り口はなかったのか？ガバナーというタイトル通り映画人を切り口にしてないのは分かるが、映画との関連付けは欲しい。

・映画やシュワルツェネッガーに対するオマージュがない。映画に関連づいていない。

・番組出演者の小西克哉氏とてらさわホーク氏についてバランスが悪いと感じた。アメリカの政治について、視聴者のリテラシーは高くなっている中、2人の会話は表面的に撫でているだけ、思った事を好き勝手に話しているだけという印象。映画愛も感じなかった。

・2人の対談の方向性ありきだとしても途中のまとめ方が浅薄な印象を受けた。映画人としてなのか、ガバナーとしてなのか、番組の軸がブレていたように感じ、何を言いたいのかわからない。映画本編への視聴誘導にもならないと感じた。

・番組の構成に関して、シュワルツェネッガーのスキャンダルで締めるのはマズイと思う。ネガティブな事は途中で挟む程度にすべき。

・映画と制作した番組がトータルでパッケージとなって、見たいと思わせる工夫が必要。企画、オマージュが大切。4Kなどの技術的な部分だけに引っ張られるのではなく、そういう時代だからこそ中身をしっかり詰めるべき。ただこういった取り組みは今後もどんどんすべきだろう。

<4K放送の主カラインアップである名画特集について>

・今後、作品選定をする際は「サウンド・オブ・ミュージック」や「アラビアのロレンス」などの、4Kで見る意義がある作品かどうかを意識すべきだろう。

・画質は綺麗になればなる程デメリットもあるのでは？女性のシワや、作り手の作家性(意図して画面を汚している場合ある)が失われる可能性など。綺麗と鮮明は違う。このバランスが難しい。

・映画館で見てもスマホで見ても大差ない作品が多い。良いか悪いかではなくそういう時代。ただ、大画面で見た方が良い映画もある。

<事業者回答>

映画愛と、映画の見せ方については日々意識して取り組んでいく。頂いたご意見を踏まえ、チャンネル運営に活かしていく。